

北九州市立菊陵中学校
学校だより
6月号
校長 上赤義人

学校教育目標
生徒一人一人の個性の伸長を図り、
徳・知・体の調和のとれた、
感謝の心をもつ自主した生徒の育成

危機意識

「自分の命は自分で守る」と「自立」

現在のコロナ禍、感染についての緊張感が続いています。また、梅雨の時期の大雨、そして台風、地震など自然災害も少なくありません。これらを今すぐになくすることはできなくとも、それらに対しての準備はできるものです。その準備への心構えは学校だけではなく家庭・地域においても大切なことです。

学校では、年間に3回程度の避難訓練を行います。火災・地震（津波）・不審者をそれぞれ想定し訓練を実施しています。いつの訓練でも言っていることは「自分の命は自分で守る」ということです。これは、自分で（自分たちで）状況を観察し判断する、そして自分が（自分たちが）行動するということです。災害は訓練のように学校にいる時ばかりではありません。登下校・家に一人である・友達と遊んでいる場合もあります。そんな時に、どう判断し、どう行動するのが大切です。

「どう判断し、どう行動するのか」については、避難訓練の時だけではなく、日々の学校生活の中でも実践しています。例えば、各教科の授業では、知識・技能の習得だけを目指しているのではなく、その知識・技能を生かして現在・将来の生活においてよりよく判断し行動することを大切にしています。

自分がやりたいことを、自分で見つけて、自分でどんどんやっていくという、自己実現力(=考動)を通しての「自立」は学校教育目標にも示しています。「自分の命は自分で守る」ということは「自立」にもつながっていることを生徒のみなさん一人一人が考えてください。また、ご家庭や地域においても「自分の命は自分で守る」と「自立」について話をしていただきたいと思います。

最後に、令和3年5月20日から警戒レベル4の「避難勧告」が廃止され「避難指示で必ず避難」に変わりました。そして、小中学校や公民館等の行政が指定した避難場所に行くだけが避難ではないことも示されています。

たんぼぼのちえ
春になると、タンポポの黄色いきれいな花
ます。
二、三日たつと、その花はしぼんで、だ
っぱい色にかわっていきます。そうして、カ
の花のじくは、ぐったりと地面に倒れてしまいま
す。
けれども、たんぼぼは、枯れてしまつたのではあ
りません。花とじくを静かに休ませて、種に、たく
さんの栄養を送っているのです。こうして、タンポ
ポは、種とどんどん太らせるのです。
やがて、花はすっかり枯れて、そのあとに、白い
綿毛ができてきます。この綿毛の一つ一つは、ひろ
がると、ちょうど落下傘のようになります。たんぼ
ぼは、この綿毛についている種をふわふわと飛ばす
のです。このころになると、それまで倒れていた花
のじくが、また起き上がりします。そうして、背伸び
をするように、ぐんぐん伸びていきます。
なぜ、こんなことをするのでしょうか。それはせい
背を高くする方が、綿毛に風がよくあたって、遠く
まで飛ばすことができるからです。よく晴れて、風の
ある日には綿毛の落下傘は、いっぱい開いて、遠
くまで飛んでいきます。

以下省略



本校では、5月下旬から昼食時間に全校放送で読み聞かせを実施しています。週1回程度、学校図書館職員（里先生）と読み聞かせボランティア（もりのいえ）の方々によってなされます。上記の「たんぼぼのちえ」はその時に読まれたものです。

読み聞かせは、小学校ではよく行われているようですが、本校での実施は初めてです。生徒たちは、コロナ禍で昼食時間は全員前を向いて無言で食事をしています。読み聞かせで少しでも生徒たちの心が癒され、そして、少しでも読書への興味がわき、本好きが増えることを期待しています。

